

学校だより

令和6年11月29日
第8号
江戸川区立本一色小学校

あすなろ

嫌なことは宝物の入口

校長 すえまつ 末松 ちかし 睦士

「思いをかたちに～個性かがやく本小美術館～」というテーマのもと先月開かれた展覧会。子供たちは表現の喜びを味わうことができました。また、作品を鑑賞する活動を通して、友だちの良さにも気付き、自他を尊重する姿勢にもつながることができたのではないのでしょうか。たくさんの保護者の皆様や地域の皆様にご来校いただき、子供たちの励みになりました。ありがとうございました。



ところで、島筒 英夫（しまづつ ひでお）さんという方をご存知でしょうか。島筒さんは、作曲家でもありピアニストでもあります。「さよならぼくたちのようちえん」とか「ほいくえん」という歌を作った方なので、もしかしたら子供たちの中にも、その歌は知っているよという人がいるかもしれません。

その島筒さんは、様々な講演会の中で「嫌なことは、宝物の入口」ということをおっしゃっています。嫌なことが宝物の入口って、どういうことでしょうか？

ピアニストの島筒さんにとっての宝物は、ピアノです。そのピアノとの出会いには、島筒さんがもっているある個性が関係しています。

島筒さんとピアノと結びつけた個性とは…。実は島筒さんは、目が全く見えない方だったのです。2歳の時に病気で視力を失ってしまったそうです。目は見えなくても、音は聞こえます。そこで、6歳の時に、目は見えなくても楽しめることをさせてあげたいと、島筒さんのお母さんがピアノを勧めてくれたのだそうです。目が見えないことは「嫌なこと」だけど、そのおかげで「ピアノ」という宝物に出会えたのですから、「嫌なことは宝物の入口」だと学んだということでした。

「嫌なことは、宝物の入口」…。勇気をくれる言葉だと思いませんか。

嫌なことがない人なんていません。もしかしたら、今回の展覧会も、図工が苦手な子が憂鬱だった子もいたかもしれません。島筒さんも、ピアノは好きだけれど、その練習は嫌だったそうです。でも、その嫌なことから逃げずにやり通してきたことで、ピアニストにもなれたのです。

なりたい自分になるために、好きなことをいっぱい楽しむために、今嫌だと思っても、やらなければいけない、乗り越えなくてはならないといったことがあるでしょう。でも、その先に、宝物が待っているとしたら、勇気が出ますよね。



本一色小学校ホームページ